

(前回の続き)

言い訳をする子どもに対しての叱り方・育て方**・子どもの言い分を最後まで落ち着いて聞く**

子どもの話が終わらないうちに「何でそういうことをするの?」「それは違うでしょ?」など途中で話を止めてしまうことがあります。実はこの瞬間に子どもは「怒られる」という気持ちが強くなりがちです。

また子どもの言い分を全部聞いていないタイミングで叱ると子どもにも「だから最後まで話を聞いてよ」という感情が湧いてきます。

したがってまずは子どもの言い分を最後まで落ち着いて聞くことが大切となります。子どもの言い分を最後まで聞くことで子どもにも「最後まで話をしっかり聞いてくれるから正直に話そう」という気持ちが芽生える可能性があります。

・親の素直な気持ちを伝える

命令口調で「これはダメ!」と叱っても子どもは萎縮してしまったり、反発心から言い訳をしてしまったりする可能性が高くなります。したがって言い訳をよくする子どもに対しては親が抱いている気持ちを素直に伝えてあげましょう。

具体的には子どもが他の子を叩いて泣かせてしまった時に「絶対に叩くな!」ではなく「相手の子の立場だったら悲しくて泣いちゃうな」といったような言い方が好ましいです。

このような叱り方、育て方を意識することで子どもも親に対して反発心や不信感を抱くことがなくなるため、素直な気持ちで親の言い分に耳を傾けることができます。

・起きた出来事を相手の立場になって考えさせてみる

相手の立場になって物事を考えると意外と素直な気持ちになれるのが私たち人間の特徴でもあります。子どもは成長するにたがって善悪の判断ができるようになりますが、大人と比べるとやはりまだまだ未熟な部分はたくさんあります。したがって問題やトラブルを起こした時に悪いことをしたという自覚がないこともあります。このような時に相手の立場になって物事を考えさせることは有効ですので、ぜひ試してみましょう。

・子どもと一緒に解決策を考えるようにする

子どもの起こした失敗や過ちをただ指摘するだけでは言い訳モードがONに入ります。そのため、子どもが問題やトラブルを起こした時は子どもと一緒に解決策を考えるようにしましょう。

正しい子育てというのは悪いことをした子どもを精神的に追い詰めることではありません。起こした過ちや失敗を責めるのではなく「次はどうする?」といったように解決策を導き出すサポートをしてあげることが親の大切な役目でもあります。

「起きてしまったことはしょうがないね、次はお母さんもお父さんも協力するから頑張ろう」という姿勢で子どもに接することで、子どもも親に対しての信頼感がアップし、言い訳を口にするようなことはしなくなるでしょう。

**子どもが言い訳するのは親の「愛」が原点にあることを忘れない**

言い訳をする子どもを見るとつい「悪い子だ」と叱りたくなります。しかし、子どもが言い訳をする根底には「親の愛」があります。「親から嫌われたくない」という気持ちから言い訳につながっていることが多いので、両親も決して子どもを怒鳴るようなことはしないでください。

言い訳をしない子どもに育てるにはミスを責めるのではなく、解決策と一緒に探してあげるといった工夫が大事となります。

○子どものための教育評価アンケート結果について

1月下旬にお願いをいたしましたアンケートにつきまして、結果の公開をさせていただきます。昨年度は、印刷をして各家庭に配付しておりましたが、モノクロのためグラフが見づらい状態となっておりました。本年度はホームページにて公開させていただきます。お手間をおかけしますがご一読いただきますようお願い申し上げます。

ホームページ更新しました	来週の予定				
	月	日	曜	時間	行事等
○授業参観	3	6	月	14:55	朝礼
					一斉下校
○学年通信(各学年)		7	火	15:45	一斉下校
○6年企画最後のふれあいタイム「思いをつなげ! ボール運びリレー」		8	水	1・2限	6年生を送る会
				14:55	1・2年スクールガード下校
				15:45	3~6年下校
○バイキング給食6年		9	木	15:45	一斉下校
○朝礼 表彰 鬼頭先生講話 SFT連絡		10	金	14:55	1~3年下校
				15:45	4~6年下校

子どもたちの活動の様子は、本校ホームページをご覧ください。

十四山東部小学校

で

検索

または

